

〔本朝醫考 中〕鍼醫

上池院民部卿法印紹胤之孫壽三、并意齋、近世以鍼醫鳴於世、其徒到今多矣、其外家傳者亦夥矣、

〔本朝醫考 中〕上池院

其先出自源賴光五世之孫充角、充角號坂三郎、產于和州、其後家系斷絕、而後有九佛嗣焉、

〔皇國名醫傳後編 上〕吉田意休

吉田意休、出雲人、世爲大社祠官、永祿初、意休往明國學刺鍼於崔林杏氏、名琢周留七年、盡得其法、著刺鍼家鑑、授子意安、意安授子一貞、一貞居越前福井、其術大行、是爲吉田流、

〔療治之大概集〕三部書序

略○中

延寶ノ際、杉山和一ト云フモノアリ、卓絶奇偉ノ人ナリ、勢州津ノ藩士、父云、幼ニシテ、江戸ニ來リ、杉山權右衛門ト云、幼ニシテ、江戸ニ來リ、
鍼科ヲ山瀬琢一二學ズ、琢一ハ、其術ヲ京師ノ入江良明ニ學ズ、良明ハ、其父賴明ニ受タリ、賴明ハ、
豊臣秀吉ノ醫官、岡田道保ニ受ク、略○中德川嚴有公、聞テ大城ニ召ス、嗣テ常憲公ノ病ニ侍ス、功効
アリ、一日、公欲スル所ヲ問フ、對曰ク、臣世ニ於テ希倖スル所ナシ、只願クハ、一目ヲ欲スルノミ、公
聞テ之ヲ憐ミ、本所一つ目ヲ賜ヒ、祿五百石ヲ給ス、後増シテ三百石ヲ賜フ、特命ヲ以テ、關東總檢
校トナル、肄館ヲ建テ、鍼治講習所ト云フ、諸方ヨリ門人來聚リ、別ニ一派ヲ開ク、世ニ之ヲ杉山流。
ト云フ、著述三部アリ、一ヲ大概集ト曰フ、鍼ノ刺術病論ノ説ク二ヲ三要集ト曰フ、鍼ノ補瀉四經ノ理十三ヲ節要集ト曰フ、先天後天是書、畢生ノ精力ヲ以テ、鍼法ノ秘蘊ヲ發揮ス、

〔續近代畸人傳〕杉山檢校

杉山檢校は、遠江濱松の人なり、十歳にして瞽者となれり、元性豪爽にして凡ならず、眼は盲たりといへども、名を天下に成んことを欲し、十七歳の時鎌倉に至り、江島の岩屋に入て断食し、祈ること三七日、丹誠比類なし、されば満る夜の夢に、鍼と管とを得ると思ひて覺たるに、その物實に